

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月12日

【四半期会計期間】 第73期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 株式会社不動テトラ

【英訳名】 Fudo Tetra Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 奥田 真也

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋小網町7番2号

【電話番号】 03(5644)8500(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部財務部長 北川 昌一

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋小網町7番2号

【電話番号】 03(5644)8500(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部財務部長 北川 昌一

【縦覧に供する場所】 株式会社不動テトラ 北関東支店  
(さいたま市大宮区吉敷町一丁目23番地1)

株式会社不動テトラ 千葉支店  
(千葉市中央区富士見二丁目3番1号)

株式会社不動テトラ 横浜支店  
(横浜市中区真砂町二丁目25番地)

株式会社不動テトラ 中部支店  
(名古屋市中区栄五丁目27番14号)

株式会社不動テトラ 大阪支店  
(大阪市中央区南船場二丁目3番2号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第72期 第2四半期 連結累計期間	第73期 第2四半期 連結累計期間	第72期
会計期間		自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	(百万円)	28,132	31,882	62,805
経常利益	(百万円)	1,605	1,954	3,710
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,102	1,342	2,445
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,290	1,404	2,629
純資産額	(百万円)	23,815	25,339	25,154
総資産額	(百万円)	43,921	48,887	53,103
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	67.20	82.41	149.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	53.6	51.2	46.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	114	3,932	12,682
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	286	1,073	920
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,030	2,227	1,252
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	7,434	13,140	20,376

回次		第72期 第2四半期 連結会計期間	第73期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	50.95	54.80

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税及び地方消費税は含まれていない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していない。
4. 当社は第71期第2四半期連結会計期間より「役員報酬BIP信託」を導入している。当該信託が保有する当社株式を自己株式として計上している。また、1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数は、当該株式を控除対象の自己株式に含めて算定している。
5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっている。
6. 当社は、平成30年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っている。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定している。

#### 2 【事業の内容】

当社の連結子会社であった東亜土木株式会社は、平成30年4月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外している。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書提出後、事業等のリスクに記載した内容から変更はない。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものである。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っている。

#### (1) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形・完成工事未収入金等及び未成工事支出金等は増加したものの、現金預金が減少したこと等により前連結会計年度末に比べて42億17百万円減少し、488億87百万円となった。

負債は、主に流動負債のその他に含まれる未払消費税や短期借入金が減少したことにより前連結会計年度末に比べて44億2百万円減少し、235億48百万円となった。

純資産は、当四半期純利益の計上はあったものの、当第2四半期連結会計期間での剰余金の配当及び自己株式の取得もあり、前連結会計年度末に比べて1億85百万円増加し、253億39百万円となった。

#### (2) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境や企業収益の改善が続き、緩やかな回復基調が続いたが、輸出には足踏みがみられ、米国の通商政策を巡る影響が懸念される状況にある。

建設業界においては、公共投資は底堅く推移し、民間投資は持ち直しの動きが続くなか、全体としては良好な環境が続いた。

当社グループでは、今期スタートした中期経営計画（2018～2020年度）において、当計画期間を持続的な成長に向けた基盤整備期間と位置付け、有形無形の経営資源への戦略的投資及び収益基盤の多様化に取り組むこととし、グループ各社が連携し経営目標の達成に鋭意努力してきた。

この結果、当第2四半期連結累計期間の受注高は481億37百万円（前年同四半期比29.3%増）と増加し、売上高は318億82百万円（前年同四半期比13.3%増）と増収となり、営業利益は18億98百万円（前年同四半期比20.9%増）、経常利益は19億54百万円（前年同四半期比21.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億42百万円（前年同四半期比21.8%増）と増益となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

##### 土木事業

受注高は、296億17百万円（前年同四半期比50.1%増）と増加し、売上高も期首手持ち受注高の増加により136億48百万円（前年同四半期比10.5%増）と増収となった。しかしながら、営業利益は前期にあった高採算工事が減少し1億25百万円（前年同四半期比72.9%減）となった。

##### 地盤改良事業

受注高は166億6百万円（前年同四半期比3.1%増）と増加し、売上高も期首手持ち受注の進捗が順調であったことにより170億67百万円（前年同四半期比17.9%増）と増収となった。また、営業利益は増収に加え完成工事総利益率の改善により19億円（前年同四半期比44.7%増）となった。

##### ブロック事業

受注高は、18億58百万円（前年同四半期比19.5%増）と増加したものの、売上高は期首手持ち受注高の減少により11億19百万円（前年同四半期比7.6%減）、営業損失は1億12百万円（前年同四半期1億85百万円の営業損失）となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末残高に比べ72億35百万円減少し、131億40百万円（前年同四半期は74億34百万円）となった。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益を19億92百万円計上したものの、消費税等の支払により39億32百万円の支出超過（前年同四半期は1億14百万円の支出超過）となった。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得及び固定資産の取得等により10億73百万円の支出超過（前年同四半期は2億86百万円の支出超過）となった。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済、配当金の支払及び自己株式の取得等により22億27百万円の支出超過（前年同四半期は20億30百万円の支出超過）となった。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2億41百万円である。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営戦略の現状と見通しに重要な変更はない。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営者の問題認識と今後の方針について重要な変更はない。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	272,559,104
計	272,559,104

(注)平成30年6月22日開催の第72期定時株主総会の決議により、平成30年10月1日付で株式併合に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は、245,303,194株減少し、27,255,910株となっている。

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	182,025,228	18,202,522	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	182,025,228	18,202,522		

(注)平成30年6月22日開催の第72期定時株主総会の決議により、平成30年10月1日付で当社普通株式10株を1株に併合したため、発行済株式総数は163,822,706株減少し、18,202,522株となっている。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年9月30日		182,025		5,000		2,472

(注)平成30年6月22日開催の第72期定時株主総会の決議により、平成30年10月1日付で当社普通株式10株を1株に併合したため、発行済株式総数は163,822,706株減少し、18,202,522株となっている。

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	7,635	4.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	5,946	3.66
新日鐵住金株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目6-1	4,063	2.50
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	BANKPLASSEN 2, 0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	3,836	2.36
日鉄鉱業株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3番2号	3,409	2.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	3,304	2.03
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人モルガン・スタンレーMUFJ証券株式会社)	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町1丁目9-7 大手町 フィナンシャルシティ サウスタワー)	2,971	1.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,471	1.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,395	1.47
前田 保	大阪府大阪市西淀川区	2,368	1.46
計		38,398	23.64

(注) 1 上記所有株式数のほか、当社所有の自己株式19,590千株がある。

2 平成30年7月30日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(株式会社三菱UFJ銀行他4社)が、平成30年7月23日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として、当第2四半期会計期間末時点における実質保有株式数の確認できないものについては、上記大株主の状況に含めていない。なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりである。

提出者及び共同保有者名	住所	保有株券の数 (千株)	株券保有割合 (%)
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	1,631	0.90
株式会社三菱UFJ信託銀行	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	3,991	2.19
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	1,357	0.75
カブドットコム証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目3番2号	833	0.46
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	1,521	0.84
計		9,333	5.13

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 19,590,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 162,372,300	1,623,723	
単元未満株式	普通株式 62,528		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	182,025,228		
総株主の議決権		1,623,723	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,200株(議決権の数22個)及び役員報酬BIP信託が所有する株式が462,700株(議決権の数4,627個)含まれている。

2 「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の自己株式99株及び役員報酬BIP信託が所有する株式が37株含まれている。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社不動産テトラ	東京都中央区日本橋小網 町7番2号	19,590,400		19,590,400	10.76
計		19,590,400		19,590,400	10.76

(注) 役員報酬BIP信託が所有する株式462,700株(議決権の数4,627個)は、上記自己株式には含まれていない。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第2四半期累計期間における役員の異動はない。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載している。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	20,392	13,160
受取手形・完成工事未収入金等	1、3 15,843	1、3 17,246
電子記録債権	3 2,248	3 2,334
有価証券	500	1,000
未成工事支出金等	1,285	2,219
販売用不動産	301	297
材料貯蔵品	475	494
その他	1,858	2,488
貸倒引当金	58	64
流動資産合計	42,842	39,174
固定資産		
有形固定資産	6,114	6,042
無形固定資産	114	98
投資その他の資産		
投資有価証券	2,057	1,903
その他	2,088	1,781
貸倒引当金	112	111
投資その他の資産合計	4,032	3,573
固定資産合計	10,261	9,714
資産合計	53,103	48,887
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	3 7,471	7,516
電子記録債務	8,994	9,250
短期借入金	2 900	-
未払法人税等	399	420
未成工事受入金等	2,744	2,787
引当金	1,473	626
その他	3,654	859
流動負債合計	25,635	21,460
固定負債		
引当金	40	29
退職給付に係る負債	1,953	1,719
その他	321	340
固定負債合計	2,314	2,089
負債合計	27,950	23,548

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	14,756	14,756
利益剰余金	5,565	6,085
自己株式	335	730
株主資本合計	24,986	25,111
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	170	178
為替換算調整勘定	146	154
退職給付に係る調整累計額	159	110
その他の包括利益累計額合計	136	85
非支配株主持分	303	313
純資産合計	25,154	25,339
負債純資産合計	53,103	48,887

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>売上高</b>		
完成工事高	26,571	30,541
兼業事業売上高	1,561	1,341
売上高合計	28,132	31,882
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	22,339	25,807
兼業事業売上原価	953	837
売上原価合計	23,293	26,644
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	4,231	4,734
兼業事業総利益	608	503
売上総利益合計	4,839	5,237
販売費及び一般管理費	1 3,270	1 3,340
営業利益	1,569	1,898
<b>営業外収益</b>		
受取配当金	41	59
特許実施収入	7	12
その他	28	24
営業外収益合計	77	95
<b>営業外費用</b>		
支払利息	12	12
支払手数料	9	11
支払保証料	17	12
その他	3	4
営業外費用合計	41	39
経常利益	1,605	1,954
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	-	38
その他	52	8
特別利益合計	52	47
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	4	6
投資有価証券評価損	6	-
減損損失	15	-
その他	6	2
特別損失合計	31	9
税金等調整前四半期純利益	1,626	1,992
法人税、住民税及び事業税	103	350
法人税等調整額	394	288
法人税等合計	497	638
四半期純利益	1,129	1,354
非支配株主に帰属する四半期純利益	27	12
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,102	1,342

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	1,129	1,354
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	64	9
為替換算調整勘定	6	7
退職給付に係る調整額	102	49
その他の包括利益合計	161	51
四半期包括利益	1,290	1,404
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,263	1,392
非支配株主に係る四半期包括利益	27	12

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,626	1,992
減価償却費	530	570
貸倒引当金の増減額(は減少)	9	5
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	91	164
その他の引当金の増減額(は減少)	1,115	858
受取利息及び受取配当金	42	60
支払利息	12	12
投資有価証券売却損益(は益)	-	38
売上債権の増減額(は増加)	2,074	1,500
未成工事支出金等の増減額(は増加)	1,041	935
仕入債務の増減額(は減少)	172	310
未成工事受入金等の増減額(は減少)	850	44
未払消費税等の増減額(は減少)	986	1,692
その他の流動資産の増減額(は増加)	426	628
その他の流動負債の増減額(は減少)	144	689
その他	20	12
小計	1,045	3,643
利息及び配当金の受取額	42	60
利息の支払額	12	12
法人税等の支払額	1,188	336
営業活動によるキャッシュ・フロー	114	3,932
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の増減額(は増加)	300	500
有形及び無形固定資産の取得による支出	61	805
有形固定資産の売却による収入	75	30
投資有価証券の取得による支出	1	1
投資有価証券の売却による収入	-	206
会員権の取得による支出	-	9
貸付けによる支出	5	0
貸付金の回収による収入	7	5
その他	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	286	1,073
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	900	900
リース債務の返済による支出	134	100
自己株式の取得による支出	0	400
親会社による配当金の支払額	981	816
非支配株主への配当金の支払額	2	2
その他	12	8
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,030	2,227
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	2
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,434	7,235
現金及び現金同等物の期首残高	9,868	20,376
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 7,434	1 13,140

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

東亜土木株式会社については、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間から連結の範囲から除外している。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示している。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
	12百万円	22百万円

2 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結している。当四半期連結会計期間末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
貸出コミットメントの総額	4,000百万円	4,000百万円
借入実行残高	500	-
差引額	3,500	4,000

3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理している。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休業日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれている。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	160百万円	88百万円
電子記録債権	37	39
支払手形	20	-

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
従業員給料手当	1,281百万円	1,274百万円
賞与及び賞与引当金繰入額	169	193
退職給付費用	125	84

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金預金	7,447百万円	13,160百万円
預入期間が3か月超の定期預金	13	19
現金及び現金同等物	7,434	13,140

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	987	6.00	平成29年3月31日	平成29年6月26日	利益剰余金

(注) 平成29年6月23日定時株主総会決議による配当額の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれている。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項なし。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月22日 定時株主総会	普通株式	822	5.00	平成30年3月31日	平成30年6月25日	利益剰余金

(注) 平成30年6月22日定時株主総会決議による配当額の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれている。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	土木事業	地盤改良 事業	ブロック 事業	合計				
売上高								
外部顧客に対する売上高	12,409	14,375	1,206	27,989	143	28,132	-	28,132
セグメント間の内部売上高 又は振替高	54	97	5	47	100	146	146	-
計	12,354	14,471	1,211	28,036	242	28,278	146	28,132
セグメント利益又は損失( )	464	1,313	185	1,592	2	1,594	24	1,569

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ内の保険等のサービス事業等からなる。

2 セグメント利益又は損失( )の調整額 24百万円には、セグメント間取引消去13百万円、全社費用 38百万円、その他の調整額1百万円が含まれている。

3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	土木事業	地盤改良 事業	ブロック 事業	合計				
売上高								
外部顧客に対する売上高	13,011	17,615	1,112	31,739	143	31,882	-	31,882
セグメント間の内部売上高 又は振替高	637	548	7	95	163	258	258	-
計	13,648	17,067	1,119	31,834	306	32,139	258	31,882
セグメント利益又は損失( )	125	1,900	112	1,913	14	1,926	29	1,898

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ内の保険等のサービス事業等からなる。

2 セグメント利益又は損失( )の調整額 29百万円には、セグメント間取引消去5百万円、全社費用 30百万円、その他の調整額 4百万円が含まれている。

3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益	67円20銭	82円41銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,102	1,342
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,102	1,342
普通株式の期中平均株式数 (千株)	16,398	16,283

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していない。
- 2 株主資本において自己株式として計上されている役員報酬BIP信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めている。
- 1株当たり四半期純利益金額の算定上、当該自己株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間1,804千株、当第2四半期連結累計期間1,920千株、このうち役員報酬BIP信託が所有する当社株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間50千株、当第2四半期連結累計期間48千株である。
- 3 当社は、平成30年10月1日付けで普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っている。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定している。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

## 2 【その他】

該当事項なし。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月12日

株式会社不動産テトラ  
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 田 清 朗 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 橋 本 裕 昭 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社不動産テトラの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社不動産テトラ及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。